

グループの名称と主な活動：スイーツの会

2011年3月11日に発生した東日本大震災を契機に発足した会（グループ）です。

あの惨状を見て自分たちにできる事はないか、矢も楯もいられず、都立高校PTA委員が中心となり、同年4月から中央公民館実習室で毎週クッキーを作り、被災地に送り続け支援しました。

また中央公民館まつりなどでは、被災地の現状などを紹介（次ページ以降に、その活動報告をまとめた資料を掲載）しました。

現在は、地震や水害が発生した時や東日本大震災被災地支援のコンサートなどを開催する個人・グループの活動をクッキーで支援し、今年からは地域を守る派出所やコロナで命を守る医療機関に感謝の気持ちをこめたスイーツプレゼントを実施しています。

活動内容の紹介

活動日時	地震や水害等が発生した時に活動と呼びかけ開催しています		
会費	参加者で材料費を負担します	会員数	開催時には毎回10名程度の参加があります
活動拠点	中央公民館実習室		
【その他】	活動日時は、各公民館にお知らせを貼りますので、ご参加よろしく願いいたします。		

スイーツの会 活動風景

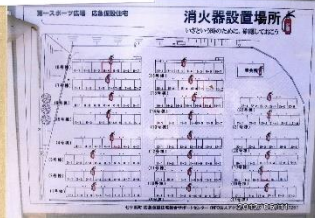


宮城県七ヶ浜町を訪ねました

2012年6月11日

七ヶ浜は宮城県で一番小さな町です。420戸の仮設住宅は7か所に分散して建っています。海辺近くに住んでいた漁師さんたちが入居しています。

せんせきせんげぼ
七ヶ浜は仙石線下馬から
タクシーで行きました



町の様子です。ここは住宅地でした。土台だけが残っています。

以前は海が見えないほどの松林でした。



原っぱに見えますが住宅地跡です。



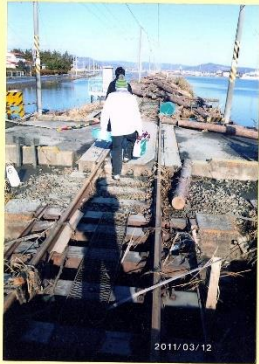
仮設住宅 鉄塔左奥に見えるのがれきです



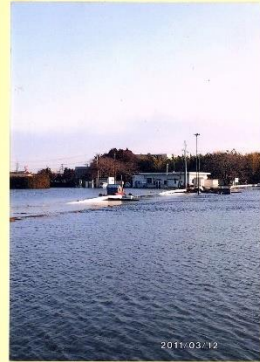
仮設住宅にある集会所内部



東松島市、石巻市からの写真



家族の車もみんな流れ



友人3人で食べ物をもらいに避難所へ。少ししかもらえず…

遺体がたくさんある中、腰まで水に浸かり帰った。



丸太を片づけ家に入れるように泥かき

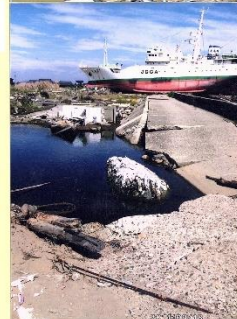


家族を捜しに棒を持ち



2011/04/18

住宅地に流された船



避難所に知人を探しに



会社の泥かきへ



道路標識も

山本麻琴先生（東大和高校和太鼓部指導者）の慈善演奏にクッキー託す 2011年7月

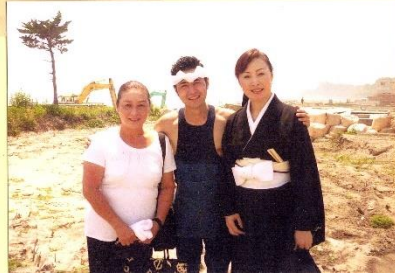
岩手県山田町



宮城県七ヶ浜海岸



福島県いわき市



2011.10.4.



スイーツの会が被災地に送った
クッキーに返礼のメッセージを
いただきました。

やまーのた後隊

残暑御見舞い

申上げます

この度は勇ま真心の
美味しクッキーを送って
頂きまして心より感謝
御礼申上げます
山本麻琴先生からの
御縁を賜り素晴らしい
方々のお出合いを頂きました
本当に嬉しく有難い気
持です。上げさせていただきます

うぐーは福島より
愛を込めて

平成二十三年八月十六日

心やうな愛の花

スイーツの会

代表 田田裕子様

皆様様

御許

加藤ふみ子

このおくりは最高の愛

罹災された方々の涙れと

心配をぬぐい人命救済へと

注がれること存じます

本当に親切にして

頂き今一度勇ま真心に

厚く御礼申上げます

未筆ながら皆様の御

多事な心よりお祈り申

上げます

感謝

クッキーの配布先

九月十一日(日)

三ツ川町 東日本大震災

鎮魂慰霊祭

主催 三ツ川町 中央会

田田裕子様の会

原発事故による避難されて

いる 広野 楢葉 浪江 富岡

川内村の方々にお渡しさせて頂

頂きます。何卒宜しくお願い

致します。

パオ広場の活動もひと区切り

スイーツの会のみさん

平成 24 年 8 月 10 日

パオ広場 スタッフ一同

このたびは、おいしい手作りクッキーをたくさん送っていただき、ほんとうにありがとうございます。

先日は東人和高校家庭課部の皆様からも、「スイーツの会さんからのご紹介」ということでおいしいクッキーを送っていただきました

夏休みに入り、仮設住宅に住んでいる子供たちも毎日広場に集まってきます。ここ数日は暑い日が続き、狭いビニールプールでぎゅうぎゅうになりながら水遊びを楽しんでいます。思いっきり遊んだ後に、おいしいクッキーを頬張りながらまた水遊び、夕方まで元気いっぱい遊びまわっています。夏休みも終わりに近づけば、手つかずで残った宿題に追われることでしょう。(笑)

そんな子供たちも 2 学期からは除染が終わった学校へ戻ります、仮設住宅にお住まいの方々もお盆を機に帰宅される方が多く、サロンへの訪問もめっきり少なくなりました。

おいしくいただいてきたクッキーですが、より必要とされる地域へ送っていただけたらと思います。

皆様には応援いただいてほんとうにありがとうございました。いつか何かの形でお返しができたらと思っています。ご支援ありがとうございました。



スイーツの会 代表 内田 裕子様

拝啓 秋風が心地よい季節となりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、過日は NPO 法人いわき自立生活センター内 中央台暮らしサポートセンターの被災者支援にご賛同いただき、手作りクッキーを賜り心よりお礼申し上げます。

東日本大震災を受け 1000 個もの仮設住宅が集中し、多くの避難者が集まるこの場所で、わたしたちの法人は被災者側の立場として、いわきに避難してきた方々の憩いの場を提供する支援をしています。

月一回のイベント、各曜日ごとの福祉サービス、毎日の傾聴ボランティア等の時間と、被災された方の声を直接聞きながら、支援活動を行っています。

最近では、「近くまで来たから」と、立ち寄ってくれる方も多くなってきました。コーヒーを勧め、いただいたクッキーと一緒にお出ししたら、大変喜ばれました。

「ひとときの安らぎを」といただいたクッキーで、ここにも温かな支援の輪が確実に広がっていること、感謝しながらいただいています。

今後とも温かく見守り、お力添えいただけたらと願います。まずは、書中をもちましてお礼申し上げます。

敬 具

平成 23 年 10 月 4 日

NPO 法人いわき自立生活センター内
中央台暮らしサポートセンター「パオ広場」
住 所 いわき市中央台高久 2 丁目 26 番地 3
電話番号 0246-68-8925
FAX 番号 0246-68-8926

「スイーツの会」活動報告

岩手県大槌町

2011年5月クッキー送付

同封した写真(赤浜の人達です。
家族を亡くした方々ですが、笑顔で
写ってくれました。
クッキーを作って下さった皆様に見せて

岩手県大槌町赤浜小学校避難所



内田さんこんにちは。
この度は、クッキーや衣類を送って下さり、
ありがとうございます。
ボランティアの皆様、ありがとうございます。
すべて大槌町にある、赤浜小学校避難所へ
届きました。とても喜んでおりました。
大槌町は、まだまだ大変な現状です。
仮設住宅にも、まだ誰も入れていません。
町並みは、無くなり、小学校、教科書で
見た戦後の様です。いや、それ以上かな...
それでも皆、少しずつ元気を取り戻し、笑顔が
出る様になってきました。時間お心を癒やして
くれるので、どうか...考えない様にしているの
でしょうか...私も自分自身の事なのに、分かり
ません。ただ、皆、生きる事に前向きです。
人間は強いですね。同じ悲しみを分か

合える人同士だからこそ出来る事だ
(と思うのですが、普通では考えられな
い事なのに、皆、毎日、復興の為、頑張っ
ています。泣いてばかりで、動けない様な
人は私もまだ見ていません。
でも、それでも、日本中の皆さんの
支援、協力をして下さっているからこの
事です。ボランティアの方へ、本当に、
感謝の気持ちでいっぱいです。
この先、まだまだ、壁を乗り越えていかなく
てはいけませんから、辛せになりたくは
ない、頑張っ、て生きています。
内田さん、皆様も、東京がいつ何が
起こっても、すぐに逃げられる様、準備は
しておいて下さいね。大槌町です。

〒207-0821 POST CARD

東大和市立野 1-1020-105

手作りクッキーで復興を応援する

スイーツの会代表 内田 裕子様

PLACE
STAMP
HERE

料金別納
郵便

この度は、心温まるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

被災者の方々は、日々、原発事故の収束を待ち続け、慣れない土地での不安な日々を送っております。このような中、皆さまのご支援は、被災者の体も心も温かくなったものと思えます。被災者の方々も皆さまにとっても感謝しております。また、半年以上が経過し長い期間となっておりますが、常に前向きな気持ちでがんばっております。

今後共、引き続きご支援、応援の程よろしく御礼申し上げます。

時運柄、お身体にはご自愛くださいませ。

宮城県七ヶ浜仮設住宅をお尋ねして

はじめまして。
「スイーツの会」所属丸山と申します。



「スイーツの会」は、東京は東大和市にある公民館の調理室で活動しています。月に2度集い、ごま、きなこ、お茶味のまるいクッキーをたくさん焼いては袋詰めをし、七ヶ浜仮設住宅にお送りしています。

東京におりますと被災地の情報は必ずしも正しくあるいは詳細には伝わってまいりません。今までひたすらにクッキーをお送りしてまいりましたが、震災発生後1年以上が経ち、今後どのような形で皆さまと関わらせていただくのが良いのでしょうか。「一度、直接伺ってみよう!」というお話になりまして・去る6月11日、はじめ七ヶ浜仮設住宅へお邪魔することになったのです。

お迎えくださったスタッフのK丸さんは、素晴らしい好青年!お若いのに、心から皆さんのお暮らし、健康、これからの生活について考えていらっしやる。本当に感動いたしました。(私達がお送りしているクッキーを、点在する仮設住宅を回って一軒一軒配ってくださっていたのですね。K丸さんはじめスタッフの皆さん、本当にご足労おかけしました、そしていつもありがとうございます)

敷地内をご案内いただきますと、通路のあちこちには、お茶のみやおしゃべりのためのいすやテーブル。三輪車に乗るかわいなお嬢さんと見守るお母様、おばあちゃん、ご近所の皆さん。玄関先には、きれいなお花や植物がしつらえてあって。東京では見かけなくなってしまった心温まる光景がそこにありました。

公民館の調理室には初めて見るような大きなお鍋や炊飯器が。震災直後は、この台所から皆さんの手によって、被災された方々のために1000食もの食事が作り出されていたそうですね。これには本当に感慨いたしました。七ヶ浜の皆さんの、温かくて強い繋がりを感しました。

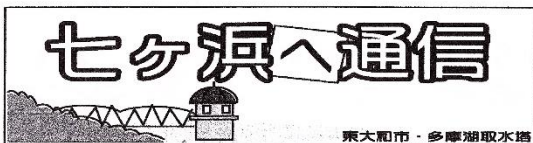
海辺を見れば、波にまびかれてしまった松林、雑草の生えた空き地。固められた瓦礫の山もまだそこにあつて。今後、私達はどのような形でお役にたてるのでしょうか。なかなか想像がつかません。それでも、東京に住んではいますが何かの形で皆さんと繋がっていられたら・・・という想いを再認識いたしました。

この度、主婦の私達がそれぞれの仕事、専門分野、得意分野を活かし、「七ヶ浜へ通信」を作成してみました。仮設住宅でお住まいのストレスや健康上のご心配を少しでもやわらげ、日々の暮らしのささやかな楽しみにしていただけたら幸いです。そして、皆さまからの感想やご意見などいただけたらうれしく思います。近況、暮らしの様子などの他、七ヶ浜伝統のお料理や名産「のり」を使ったレシピなども教えていただけると大変うれしいです!

今後とどうぞよろしくお願いたします。



『七ヶ浜へ通信』 創刊号 2012年9月25日発行
連絡先
〒207-0015
東京都東大和市中央3-9-26
東大和市中中央公民館 気付 スイーツの会



創刊号
2012年
9月25日

「七ヶ浜へ通信」はみんなをつなぐマガジン

そしてスイーツの会からのラブレター

スイーツの会 代表 内田 裕子

はじめまして。昨年から被災地にクッキーを送る活動を始めましたスイーツの会です。

昨年3月11日の東日本大震災、東京でテレビから流れる画像、何もできない自分へのいら立ち、虚しさ、無力感、途方にくれておりました。「甘いものを食べほっとしてもらおう」そんな気持ちからクッキーを送ることを始めました。今は、被災された方の復興を祈り、復興を応援する気持ちで活動しています。

私たちのメンバーは、東京多摩地区の公立高校のPTAのOB・OGと地域の人たちです。初めてクッキーを送った七ヶ浜仮設住宅を紹介してくださったのは、被災地で和太鼓演奏を行った山本麻琴先生です。山本先生は近くにある東京都立東大和高校の和太鼓部の指導者です。これが七ヶ浜とご縁が結ばれたきっかけです。ですので、このマガジンを『七ヶ浜へ通信』と命名しました。その後、友人の故郷であったり、知り合いの紹介などで福島県福島市やいわき市、岩手県大槌町などにもクッキーを送り続けています。

今年6月に、スイーツの会のメンバーと宮城県七ヶ浜仮設住宅を訪ねました。(その様子は丸山さんの文章をお読みください)その時、仮設住宅の管理者から一年以上に及ぶ不自由な仮設住宅の暮らしで高血圧や運動不足などが心配、というお話を伺いました。メンバーには、看護師やマッサージ、アロマの勉強をしたもの、運動や音楽、料理の専門家がいまいます。

本当は皆さんと色々やりたいのですが、実際にはそうもいきません。そこでメンバーが知恵を出し合い、復興に向け、元気にお過ごしいただくためのラブレターを送ることにしました。被災地の皆さんと私たちをつなぎ、また被災地同士もつながっていく、そんなマガジンとなることを祈って創刊しました。

『七ヶ浜へ通信』の題字は堤さんが作成しました。

7月21日のクッキー作りの様子(東大和市中中央公民館の実習室で作っています)



御諏訪太鼓伝承者

打ち手

記録・救護

山本 麻琴
高林 英彦
館 直也
小口 秀明

敬具

拝啓 例年になく過ぎしやすい日がつづいておりますが、各地で豪雨の被害が出ており、ご無事で居られることを祈っております。

先日の東北3県を巡る御諏訪太鼓ボランティアでは大変お世話になり、内田様から託されましたクッキーをお配りしたところ大変喜んでいただけました。私たちは地元に戻り、自身の目で見て触合つて感じた今の被災地状況を伝えると共に、太鼓を通して出会えた皆さんにまた早く会えるよう準備しております。先代・御諏訪太鼓宗家小口大八師が提唱した『太鼓は心の栄養であり・御飯である』。それは私たち太鼓打ちが演奏するコトだけをさすのではなく、見ている方も音と共に振動・波動を身体で感じ、時には一緒に打ち鳴らし触合つこと自然と心のエネルギーが回復して笑顔がこぼれ『やる気』『勇氣』『元気』『前向き(き)』が湧いてくるものだ。今回3日間5か所岩手県・宮城県・福島県で私達が頂戴した沢山の笑顔から感じたことです。そして子供達がすぐに群がり意我夢中に太鼓を打つ姿、これこそ無の心、楽しいから触れたい、意欲の根源そんな風にも感じました。それと共に、炊き出しなどの主食では補えないホッとする気持ちになるお菓子を待っている方々は沢山居られると感じました。テレビ・新聞・ラジオといった報道機関では報じられない厳しい現実が続く最中、被災地の皆さんは頑張り続けていらっしやる。そんな中で、一抹でも励みになるのであれば私達は御諏訪太鼓を打ちに行きますので、また何かしらの形で内田様の活動とご一緒できれば幸いです。

気温のかわりやすい今年の夏、くれぐれもお身体は大事に御自愛ください。

平成二十三年八月一日

東大和高校家庭科部活動

家庭科部 被災地へクッキーを(110725)

家庭科部 被災地へクッキーを

家庭科部では活動の一環として、手作りクッキーを被災地へと届けました。

夏休み初日の7月21日、準備を進めていた被災地へのクッキー作りに取り組みました。

家庭科部は、本校元PTA会長を中心として立ち上げた「スイーツの会」(被災地に手作りクッキーを送る会)の活動を知り、自分たちも日常の活動を通して、被災地の役に立つことができると思い、この日に向けて、材料の買出しや応援メッセージづくりを進めていました。

この日は「スイーツの会」のレシピにもとづいて指導していただきながら、皆で協力してクッキーを焼き上げました。ごま、お茶、きなこの3枚を1つにまとめ、ラッピングで仕上げました。158袋をつくりあげ、被災地へと届けました。活動は8月にも実施予定です。



校長通信 バックナンバー

最終更新時間: 2011年07月25日 15時15分37秒

被災地にクッキーを送る取り組みは、都立東大和高校の家庭科部でも実施していただきました。

次のプレゼント品の写真は、
今年、警察署の派出所や医療
機関に感謝の気持ちとともに
お届けしたものです。



スイーツの会では、このよう
な活動を継続的に行って行き
たいと思っています。
興味のある方は、是非、一緒
に活動してみませんか？